

インフォメーション・コーナー

会 告

| | |
|---|-----|
| ○社団法人農業農村工学会第 41 回通常総会の報告 | 96 |
| ○平成 20 年度名誉会員の推挙 | 97 |
| ○第 21 期理事役職者の選任および会務分担について | 97 |
| ○サマーセミナー 2008 参加者大募集!! | 98 |
| ○平成 21 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) | 98 |
| ○平成 20 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について (再) | 98 |
| ○平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について | 99 |
| ○第 32 回水の週間「ウォーターフェア '08 東京」農業用水の展示出展について (第 2 報) | 99 |
| ○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!! | 100 |
| ○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い | 100 |
| ○「農業農村工学会学術基金」の募金について | 101 |
| ○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について | 101 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局 (投稿先) のお知らせ | 101 |
| ○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております! | 102 |
| ○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! | |
| 「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成 21 年夏期の表紙写真の募集 | 103 |
| ○支部講演会の投稿票について | 103 |
| ○第 63 回中国四国支部講演会の開催について (第 2 報) | 104 |
| ○平成 20 年度農村道路研究会・現地研修会開催について | 105 |
| ○農村計画研究部会第 30 回現地研修会について | 106 |
| 学会記事 | 108 |

第 76 巻第 8 号予定

展望：新たな政策領域としての「環境」：仲家修一

小特集：農業農村整備事業における環境配慮の取組み

- ①秋田県駒場北地区にみる維持管理時の環境配慮：竹村武士他
- ②善光寺用水の改修に併せたゲンジボタルの保護策について：甲斐貴光
- ③地域水ネットワーク再生事業による“水の回廊”の再生：寺田憲治
- ④支手川の近自然工法の総合評価：広瀬慎一他
- ⑤維持管理から見た国営いわさ南部地区の環境配慮対策の課題：広田純一

技術レポート

- 北海道支部：もやいドレーンマットと自生種植生を組み合わせた寒冷地法面の土壌侵食防止工法：福田尚人他
 東北支部：鍋川ため池における魚介類の生息環境配慮対策について：奈良 港他
 関東支部：松渦堰の水門形式が決定されるまでの検討について：山本照幸
 京都支部：新潟県中越沖地震で被災したパイプラインの復旧について：宮島正人
 中国四国支部：基礎地盤が流失したため池の災害復旧設計：保利誠司他
 九州支部：「塩水阻止型地下ダム」の塩水浸入検討：井手原克澄

小講座：農村生態系の評価手法：守山拓弥

私のビジョン：濁水が心を洗う：濱 武英

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|-------------------------|----------|-----------------------------------|--|-----------|---------------------|
| 平成20年8月 26～28日 | 大会運営委員会 | 平成20年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ | | 秋田市 | 75巻12号 76巻1,3,6号 |
| 平成20年9月24日 ～26日のうち一日 | 資源循環研究部会 | 平成20年度資源循環研究部会研究発表会 ⓑ | 農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果 | 東京都 | 76巻3号 |
| 平成20年10月 21,22日 | 関東支部 | 第59回講演会 ⓑ | | 長野市 | 76巻6号 |
| 平成20年10月 21,22日 | 中国四国支部 | 第63回講演会 ⓑ | | 広島市 | 76巻5号,7号 |
| 平成20年10月 22日 | 北海道支部 | 第57回研究発表会 ⓑ | | 札幌市 | |
| 平成20年10月 23,24日 | 農地保全研究部会 | 第29回研究集会 ⓑ | 中山間地における農地保全・地域資源の活用 | 松阪市 | 76巻6号 |
| 平成20年10月 30,31日 | 九州支部 | 第89回講演会・シンポジウム 第31回講習会・現地見学会 ⓑ | | 那覇市 | 76巻5号 |
| 平成20年11月 6,7日 | 京都支部 | 第65回研究発表会 ⓑ | | 福井市 | 76巻5,6号 |
| 平成20年11月 6,7日 | 農村計画研究部会 | 第30回現地研修集会 ⓑ | 都市・農村交流をめざした山、里、海づくり | 横浜市 | 76巻7号 |
| 平成20年11月 6,7日 | 農村道路研究部会 | 平成20年度研究集会・現地研修会 ⓑ | | 中国四国農政局管内 | 76巻7号 |
| 平成20年11月 13,14日 | 中国四国支部 | 第37回研修会・第32回地方講習会 ⓑ | | 岡山市 | 76巻6号 |
| 平成20年11月 19日 | 北海道支部 | 第35回研修会／第31回シンポジウム ⓑ | | 札幌市 | |
| 平成21年1月 中旬 | 東北支部 | 第42回研修会・第32回地方講習会 ⓑ | | 秋田市 | |
| 平成21年2月 3日 | 北海道支部 | 地方講習会 ⓑ | | 札幌市 | |

社団法人農業農村工学会第41回通常総会の報告

第41回通常総会を開催したので、報告いたします。

- 日時 平成20年5月28日(木) 14:00～15:00
- 場所 日本赤十字社ビル1階101会議室
- 出席者 (代議員総数110名)
村上克朗, 川原幸徳, 杉浦俊弘, 加藤 啓, 竹内周二, 小松淳, 高居和弘, 向後雄二, 齋藤公三, 松富恒雄, 齊藤正樹, 田中 勉, 遠藤知庸, 溝田大助, 岩崎光雄, 川崎健志郎, 二位孝夫, 長束 勇, 寿福洋二, 知念 武各代議員(代理を含む)ほか, 委任状提出による代議員68名, 計88名
- 開会
事務局より出席者(委任状提出者も含む)が, 定款第35条に規定する定足数に達していることを確認し, 成立している旨を告げ, 開催を宣した。
- 会長挨拶 青山咸康会長挨拶
- 議長選出
青山咸康会長を仮議長とし, 定款第34条の規定により議長選出を諮り, 全員一致をもって長利 洋代議員を議長に選出した。

7. 議事録署名人選出

仮議長への一任により, 次の2名を議事録署名人に選出した。

高居和弘代議員, 向後雄二代議員

8. 議案審議

- 議案1. 平成19年度事業報告
事務局から「第41回通常総会議案書」により内容を説明。原案どおり決定された。
- 議案2. 平成19年度収支決算
事務局から「第41回通常総会議案書」により内容を説明。原案どおり決定された。
- 議案3. 平成20年度事業計画
事務局から「第41回通常総会議案書」により内容を説明。原案どおり決定された。
- 議案4. 平成20年度収支予算
事務局から「第41回通常総会議案書」により内容を説明。原案どおり決定された。
- 議案5. 名誉会員の推挙

事務局から「第41回通常総会議案書」により内容を説明。原案どおり決定された。

(6) 議案 6. 第21期役員を選任

事務局から代議員による選挙で役員候補者選出について説明。定款第20条第1項の規定により、下記の27名を6月1日より2年間の任期で役員に選任（再任8名、新任19名）した。

再選された役員(8名)

理事 赤江 剛夫, 岩崎 和己, 太田 信介, 河地 利彦,
中島 治郎, 元杉 昭男, 山路 永司

監事 石川 重雄

新任された役員(19名)

理事 青木 章雄, 有田 博之, 有好 利典, 大串 和紀,
小前 隆美, 鮫島 信行, 嶋 栄吉, 島田 正志,

瀬口 昌洋, 相馬 尅之, 戸澤 正彦, 野中 資博,
広田 純一, 宮崎 毅, 村上 章, 森 健,
山村 宗仁, 渡辺 紹裕,

監事 大堀 忠至

9. 閉会

議長は、以上をもって全議案の審議を終了した旨を述べ、総会は終了した。上記議決を明らかにするために、議長及び議事録署名人は次に記名押印する。

平成20年5月28日

社団法人農業農村工学会第41回通常総会

議長 長利 洋

議事録署名人 高居 和弘

議事録署名人 向後 雄二

平成20年度名誉会員の推挙

第41回通常総会の議により、平成19年9月21日一部改正の「名誉会員の推薦に関する内規」に則って第204回理事会で推薦された次の正会員（敬称略）を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は192名になりました。

勝木 茂雄, 櫻井 滋郎, 荻田 昭三, 西田 啓造,
千葉 孝, 小林 清司, 喜田 大三, 青木 和芳,
久保 泰三, 稲垣 実男, 宮崎 武美, 中村 良太,
齊藤 正樹, 増田 明德, 塩谷 勝, 佐藤 洋平

第21期理事役職者の選任および会務分担について

平成20年6月6日開催の第206回理事会において、理事の互選（定款第20条第2項）により会長、副会長、専務理事を選出したほか、第21期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のとおり決めました。

記

1. 会長等

会長 宮崎 毅（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
副会長 太田 信介（（独）水資源機構副理事長）
副会長 赤江 剛夫（岡山大学大学院環境学研究科教授）
副会長 元杉 昭男（（社）地域資源循環技術センター専務理事）
専務理事 岩崎 和己（（社）農業農村工学会）

2. 理事の担当部門

| 担当部門 | 統括する副会長 | 担当理事 |
|------------|---------|---|
| 企画・運営業務 | 太田 信介 | 青木 章雄, 戸澤 正彦, 中島 治郎, 広田 純一, 山村 宗仁, 渡辺 紹裕 |
| 学会誌等定期刊行活動 | 赤江 剛夫 | 河地 利彦, 小前 隆美, 戸澤 正彦, 広田 純一, 村上 章, 相馬 尅之, 嶋 栄吉, 島田 正志, 有田 博之, 野中 資博, 瀬口 昌洋 |
| 講演会等行事活動 | 元杉 昭男 | 青木 章雄, 有好 利典, 大串 和紀, 小前 隆美, 鮫島 信行, 中島 治郎 |
| 調査・研究活動 | 赤江 剛夫 | 河地 利彦, 鮫島 信行, 村上 章, 森 健, 山路 永司, 山村 宗仁 |
| 出版活動 | 元杉 昭男 | 有好 利典, 小前 隆美, 森 健, 山村 宗仁 |
| 国際活動 | 赤江 剛夫 | 大串 和紀, 河地 利彦, 渡辺 紹裕 |
| 技術者教育活動 | 太田 信介 | 青木 章雄, 有好 利典, 大串 和紀, 小前 隆美, 鮫島 信行, 戸澤 正彦, 中島 治郎, 村上 章, 山路 永司 |
| 支部業務 | 太田 信介 | 赤江 剛夫, 元杉 昭男, 相馬 尅之, 嶋 栄吉, 島田 正志, 有田 博之, 野中 資博, 瀬口 昌洋 |

3. 第21期常置委員会委員長等

| | | | | | |
|--------------|---------|----------|---------|------------|---------|
| 企 画 委員会 | 中島 治郎 | 広 報 委員会 | 山村 宗仁 | 学術基金運営 委員会 | 太田 信介 |
| 定期刊行物 | 〃 赤江 剛夫 | 学会誌編集 | 〃 河地 利彦 | 論文集編集 | 〃 村上 章 |
| PWE 日本 | 〃 広田 純一 | 研 究 | 〃 森 健 | 上野賞選考 | 〃 鮫島 信行 |
| 学会賞選考 | 〃 赤江 剛夫 | 出版企画 | 〃 小前 隆美 | 国 際 | 〃 渡辺 紹裕 |
| 行事企画 | 〃 元杉 昭男 | JABEE 担当 | 山路 永司 | 継続教育機構担当 | 大串 和紀 |
| スチューデント委員会担当 | 渡辺 紹裕 | | | | |

サマーセミナー 2008 参加者大募集!!

農業農村工学サマーセミナー 2008 実行委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



農業農村工学を学ぶ学生を対象にサマーセミナーを行います。今年で11回目の開催となり、学会終了後の3日間に行うイベントになります。

今回のテーマは「八郎潟から考える農業農村工学の未来」です。内容は、八郎潟を見学し、講師のお話を聞くことで歴史を学び、農業農村工学の未来を議論し考えることです。これを通して、学生同士で考えを深め、交流する契機となれば幸いです。

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー 2008 実行委員会

- ・鳥取大学修士2年 鈴木謙太郎
- ・東京大学修士2年 蒲地 紀幸
- ・北海道大学修士2年 下川 昇大

2. 日時

2008年8月28(木)大会終了後~30日(土)午前中まで

3. 場所

秋田県八郎潟周辺(宿泊場所は現在検討中)

4. 参加費用(宿泊費等) 15,000円以内

5. 詳細・参加申込み

以下のHPからお申し込み下さい。詳細に関しても随時公開しております。

http://www.geocities.jp/jsidre_ss2008/index.html

6. 問合せ

☎011-706-4142

E-mail: jsidre-ss2008@yahoo.co.jp

平成21年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)

平成21年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、第76巻6号p.70の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成20年10月末日となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

平成20年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再)

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成20年度は、規程第4条(1)の「特定の分野および学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の促進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

(1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の

調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

(2) 平成20年度中(平成20年4月から21年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成20年7月31日(木)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度(平成 20 年度、原則 1 件 20 万円以内)です。

本年度の申請締切は平成 20 年 9 月 19 日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグ

ループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 20 年 9 月 19 日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail : tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

第 32 回水の週間「ウォーターフェア'08 東京」農業用水の展示出展について(第 2 報)

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア'08 東京』は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め出展することとなりました。出展準備は、東海農政局木曾川水系土

地改良調査管理事務所が鋭意行っております。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館(千代田区北の丸公園 2-1)

期 日 平成 20 年 7 月 25 日(金)~7 月 28 日(月)

展示テーマ 木曾三川の水がはぐくむ濃尾平野

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPD、また、通信教育で最大年間18CPD取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会をご希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(☎03-5777-2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名(社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年6月にVol.6, No.2が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先：農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

※入会のお申込は、学会ホームページ(http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
編集事務局(投稿先)のお知らせ

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年6月にVol.6, No.2が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer-Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のた

めに年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment
Engineering (PAWEES)

KOFST-Main Building#205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703,
Korea.

Tel : +82-2-562-3627, 562-3613 Fax : +82-2-565-
6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr(will
be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制(2006.1.1~2008.12.31)

- **Editor-in-Chief** : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
Former Professor, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13 カ国から 14 名

• **Editing Board** 32 名

• **Managing Editors**

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 76, 77 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内) | 原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守) |
|-----------------------------------|------------------------------|----------------------------|
| 76 巻 8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み (仮) | 公募終了 | |
| 9 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用 (仮) | 公募終了 | |
| 10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化 (仮) | 公募なし | |
| 11 号 地球温暖化防止と農業農村工学技術 (仮) | 公募終了 | |
| 12 号 限界集落の現状と課題 (仮) | 公募終了 | |
| 77 巻 1 号 創立 80 周年を迎えるにあたって (仮) | 公募なし | |
| 2 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成 (仮) | 平成 20 年 7 月 25 日 | 平成 20 年 9 月 12 日 |
| 3 号 農業農村整備事業の効果・効用 (仮) | 平成 20 年 8 月 25 日 | 平成 20 年 10 月 15 日 |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

「オフィス便り」は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

「キャンパス便り」は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷上り2ページ(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

「私の薦める本」は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「夏」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1~12月号)のうち、特に夏季のもの

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 平成20年9月30日(夏季の写真)

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れない、ことが採用の条件となります。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各

支部講演会担当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第63回中国四国支部講演会の開催について(第2報)

技術者継続教育プログラム認定申請中



第63回農業農村工学会中国四国支部講演会を10月21日(火)・22日(水)の2日間にわたり、開催いたします。本講演会の講演申込みについては下記のとおりです。多数の講演申込みをお待ちしております。

I. 日程 平成20年10月21日(火)～10月22日(水)

1. 講演会

(1) 日時：平成20年10月21日(火)

(2) 会場：広島県民文化センター(鯉城会館)
〒730-0511 広島市中区大手町1-5-3
☎082-245-2311 FAX 082-245-2315

9:00～ 受付開始

9:45～10:00 開会式 多目的ホール

10:00～10:10 支部賞表彰式 ♪

10:10～11:10 特別講演 ♪

講師：大和田順子 LBA(ロハス・ビジネス・アライアンス)代表

「日経新聞等」にて日本で初めてLOHASを紹介。

11:20～17:00 一般講演

第一会場 多目的ホール

第二会場 サファイア1

第三会場 サファイア2

17:00～17:15 閉会式 多目的ホール

2. 情報交換会

(1) 日時：平成20年10月21日(火) 18:00～

(2) 会場：広島県民文化センター ルビーの間

3. 現地研修会

(1) 日時：平成20年10月22日(水)

(2) コース：広島駅発→畑地帯総合整備事業奥山ダム【現地研修】(尾道市因島)→昼食世羅町(世羅ワイナリー)→農業外企業参入地区(株)日本農園・(株)世羅菜園【現地研修】→新尾道駅・尾道駅→広島駅着(広島空港)
※行き先については変更する場合があります。

II. 講演申込み

1. 投稿・講演要領

(1) 講演原稿

投稿原稿は、図、表、写真などを含め1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票をメールにより下記支部事務局宛にお送りください。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードして下さい。

い。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールで返信しますので、受領はがきは不要です。なお、発表時間や発表方法などについては事務局から連絡をする場合がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿はPDFを原則としますが、それが可能でない場合は市販のA4版上質紙(コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可)に印字したモノクロ原稿を、支部講演会投稿要領(3)に従って投稿票とともに郵送して下さい。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名が学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクタのみ準備します。

(4) 講演時間

1課題につき12分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は、講演申込とは別途に参加申込(下記III)も行い、必ず参加費を納入して下さい。

(7) 原稿の締切

平成20年8月30日(金)必着でお願いします。(遅延は不可)

(8) 講演申込みおよび問合せ先

農業農村工学会中国四国支部事務局 石井 将幸

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

島根大学生物資源科学部

TEL&FAX 0852-32-6556

E-mail: shibukouenkai@zoukou.life.shimane-u.ac.jp

2. 研鑽賞選考調査票について

当支部では、支部講演会において積極的に成果を発表した会員(大学・国立研究機関(独立行政法人近畿中国四国農業センターを含む)所属の会員を除く)を顕彰するために研鑽賞を設けております。この賞は、同一の口頭発表者が3年以上にわたって通算3回の発表を行った場合に授与されるもので、以前に受賞した人も受賞後の発表が通算3回に達すれば再度授与されます。

選考調査票は、この発表回数をカウントするための資料としますので、口頭発表者の今回を除く最新の講演(前受

賞者は受賞対象以降のもの) 2 件の題目とその年度を下記様式によりお知らせ下さい。

支部賞 (研鑽賞) 選考調査票

口頭発表者氏名 : _____
 所 属 : _____
 学会加入年度 : _____
 会 員 番 号 : _____

| No. | 年度 | 講演題目 |
|-----|----|------|
| ① | | |
| ② | | |

Ⅲ. 参加申込み

- (1) 申込書: 所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、下記(5)までお申し込み下さい。

【申込様式】

第 63 回農業農村工学会中国四国支部講演会参加申込書

所属機関 _____
 所在地 (〒 -) _____
 連絡者氏名 _____
 TEL: _____ FAX: _____
 MAIL: _____

| ふりがな | ふりがな | 講演希望 | 【21日】 講演会 参加費 (3,000円) | 【21日】 昼食代 (1,000円) | 【21日】 情報 交換会 (6,000円) | 【22日】 現地 研修会 (6,000円) | 合計 (円) | 支払 方法 1:前納 2:当日 |
|------|------|------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-----------|--------------------------|
| | | | | | | | | |
| 計 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 円 | |

注 1) 出席および必要な場合は○印、欠席および不要の場合は×印をご記入下さい。

2) 講演者は、講演希望欄に必ず◎印をご記入下さい。

- 3) 21日の講演会の昼食は、当日「弁当引換所」にて配布します。(ただし、事前予約者のみ)

(2) 申込締切日:平成 20 年 8 月 29 日 (金)

- (3) 参加費等:講演会 3,000 円。講演会を含め、講演会に参加される方は必ずお支払い下さい。

昼 食 代 1,000 円

情報交換会 6,000 円

現地研修会 6,000 円 (内訳:昼食代 1,500 円, 資料代 1,000 円, バス借上代 3,500 円)

- (4) 参加費の納入方法

参加申込書に支払方法を記入して下さい。前納の場合は、参加申込と同時に次の銀行口座に振込をお願いします。申込み後の取消、変更については、8 月 29 日 (金) 以前のお申出に限り返金いたします。なお、払込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込口座】

銀行名 広島銀行 県庁支店

口座番号 普通 3030172

名 義 人 支部講演会 実行委員会 上田 浩司

- (5) 参加申込みおよび学会に関する問合せ先

広島県農林水産局農林整備部農地整備室企画調査グループ 上田, 友瀧, 久河

☎082-513-3650 (直通), 082-228-2111 (代表)

FAX 082-228-1301

E-mail: nounouki@pref.hiroshima.lg.jp

- (6) 宿泊案内は、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)を参照して下さい。

平成 20 年度 農村道路研究集会・現地研修会開催について
 農村道路研究部会

技術者継続教育プログラム認定申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第 18 回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。

- 期 日 平成 20 年 11 月 6 日 (木) 研究集会
平成 20 年 11 月 7 日 (金) 現地見学会
- 実施場所 中国四国農政局管内 (詳細は未定)
- 研究集会
 - 日 時: 11 月 6 日 (木) 13:00~17:00
 - 課 題: 特定課題:「農道の経済効果について (仮)」
自由課題 (公募)
 - 参加費: 4,000 円/人 (論文・要旨集代)
- 現地研修会
 - 日 時: 11 月 7 日 (金) 9:00~13:00
 - 参加費: 3,000 円/人 (バス代)

5. 発表申込み・参加申込み

- 自由課題の発表申込みは、下記様式により平成 20 年 10 月 5 日 (金) までに事務局へ「FAX」あるいは「E-mail」をお願いします。ただし、発表申込みは執筆者のみとしますので、連名者で発表会に参加される方は別途申込み下さい。なお、発表論文提出〆切は 10 月 10 日 (金) といたします。
- 発表原稿書式
A4 用紙縦 (余白: 上マージン 25 mm, 下マージン 27 mm, 左右マージン 25 mm) に横書きで記入して下さい。連名の場合には口頭発表者名の前に○印を付けて下さい。論文ページ数は 6 ページを上限とします。

平成20年度農業農村工学会農村道路研究集会 発表申込書

| | | | |
|-----------|-----|-----|-----|
| 氏名(ふりがな) | | | |
| 所属 | | | |
| 所在地 | | | |
| 電話番号 | | | |
| E-mail | | | |
| 発表題目 | | | |
| 現地研修会* | 参加 | 不参加 | |
| 参加料(合計)** | | | |
| 必要書類* | 領収書 | 見積書 | 納品書 |
| 領収書等の宛先 | | | |
| CPD 番号 | | | |

※ 該当するところに○を付けて下さい。

※※ 発表のみ：5,000円、研修会も参加：9,000円

3) 参加申込みは、下記様式により平成20年10月10日(金)までに事務局へFAXあるいはE-mailでお願いします。なお、参加取消しは10月31日(金)までをお願いします。

4) 参加費は、申込みと同時に下記の銀行口座に納金して下さい。振込み手数料は各自でご負担下さい。なお、会場、バスの手配等の都合上、10月31日以降は半額申し受けま

すのでご了承下さい。
取扱銀行 三井住友銀行 経堂支店 店番号 597
口座番号 6610166

平成20年度農業農村工学会農村道路研究集会 参加申込書

| | | | |
|----------|-----|-----|-----|
| 氏名(ふりがな) | | | |
| 所属 | | | |
| 所在地 | | | |
| 電話番号 | | | |
| E-mail | | | |
| 研究会* | 参加 | 不参加 | |
| 現地研修会* | 参加 | 不参加 | |
| 参加料(合計) | | | |
| 必要書類* | 領収書 | 見積書 | 納品書 |
| 領収書の宛先 | | | |
| CPD 番号 | | | |

※ 該当するところに○を付けて下さい。

口座名 農道研究部会 会計 竹内康(タケウチヤスシ)

6. 問合せ・申込み先

事務局：東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
竹内 康

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

☎03-5477-2342 FAX 03-5477-2620

E-mail: bamboo@nodai.ac.jp

7. 宿泊について

各自で、ご手配方お願いします。

農村計画研究部会 第30回現地研修集会について

主催：農村計画研究部会 後援：神奈川県 協賛：農村計画学会

技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日程 平成20年11月6日(木)～7日(金)

2. 会場 横浜市開港記念会館(研修集会)

神奈川県西部(現地検討会)

3. テーマ 都市・農村交流をめざした山、里、海づくり

4. 趣旨

農林水産業(農山漁村)の多面的機能については、農山漁村地域に居住する住民のみならず、多くの市民を含めた関心事となっており、近年では、農山漁村独自の自然および生産環境の保全、歴史文化や景観ならびに生態系にも配慮した取組みがなされている。一方、農林水産業(農山漁村)の社会的・経済的情勢は厳しさを増し、高齢化・過疎化・都市部との経済格差が加速的に進展している。そこで、農山漁村の再生と活性化をめざし、都市・農村交流を軸とした取組みをテーマに設定した研修集会を企画した。

第一日目の研修集会では、「都市・農村交流を軸とした山、里、海づくりの基本的な考え方」、「都市近郊農村を多く抱える神奈川県での農業農村整備の現状」、「小田原漁港及び周辺海岸の整備」、「広域交流交通ネットワークの整備と広域農道整備」、「農村景観を活用した都市農村交流」、その一事例として「地場・旬・自給の農産物ネットワーク活動」、そして「農業農村整備

事業の情勢報告」が行われる。

第二日目の現地検討会では、研修集会に対応した整備事例を見学する。なお、受入人数を先着90名とする。

5. プログラム

(1) 研修集会 平成20年11月6日(木)

10:00～16:30

横浜市開港記念会館

神奈川県横浜市中区本町1-6

基調講演 「都市—農村の連携」

東京農業大学教授 進士五十八

基調報告 「神奈川県の農業農村整備」

神奈川県環境農政部農地課 篠原慎一

事例報告1 「小田原漁港及び周辺海岸の整備」

神奈川県環境農政部水産課 崎川 清

事例報告2 「広域交流交通ネットワークの整備と広域農道整備」

神奈川県西湘地域県政総合センター農政部広域農道課

太田健介

事例報告3 「農村景観を活用した都市農村交流」

南足柄市あしがら花紀行千津島地区実行委員会会長

瀬戸良雄 います。

事例報告4 「地場・旬・自給の農産物ネットワーク活動」

NPO 法人あしがら農の会 笹村 出
情勢報告 「農業農村整備事業と農村計画」

農林水産省農村振興局 前田 茂

(2) 現地検討会 平成 20 年 11 月 7 日 (金)

9:00~16:00

(集合・解散は JR 小田原駅北口)

小田原漁港, 広域農道整備事業 (小田原・湯河原線),
開成町・金井島地区あじさい農道など

6. 参加費用

研修集会参加費 5,000 円 (参加費 2,000 円, テキスト代・資料代 3,000 円)

現地検討会 5,000 円 (うち昼食代 1,000 円)

7. 参加申込み

参加をご希望の方は, 参加申込書 (本学会ホームページからダウンロードして下さい) に所要事項をもれなく記入の上, FAX または郵送にてお申し込み下さい。原則として団体ごとにまとめてお申し込みいただきますようご協力をお願いいたします。なお現地検討会につきましては, バスの都合上先着 90 名に達し次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。

(1) 申込期限 平成 20 年 9 月 12 日 (金)

(2) 申込先

農村計画研究部会現地研修集会現地運営事務局
〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通 1
神奈川県環境農政部農地課 担当: 武居, 鍋田
☎045-210-4461 FAX 045-210-8852

(3) 参加費の納入

申込みをいただきますと 10 月上旬に請求書をお送りいたしますので, 請求書の指定口座にお振り込み下さい。なお振り込み手数料は参加者のご負担でお願いいたします。

(4) 申込みの変更・取り消し

10 月 17 日 (金) までに現地運営事務局まで FAX にてお申し出下さい。それ以降の取り消しについては, 参加費の返還ができませんので, あらかじめご了承下さい。

なお, 台風等の災害で現地研修集会にご参加いただけない場合でもテキスト代・資料代(3000 円) は申し受けますので, あらかじめご了承下さい。

8. その他

詳細は, 本学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/bukaitop.htm>) をご覧下さい。

地域環境工学シリーズ 7

地域に根づく“開発”とは：国際協力の現場から

— 日本の海外農業農村開発協力 — (社) 農業農村工学会発行

目 次

まえがき

I. 海外農業農村開発協力の必要性

1. 海外の農業農村を取巻く諸問題
2. 農業農村開発協力の展開と課題

II. 日本の海外農業農村開発への取組み

1. 農業生産基盤整備への取組み
2. 環境問題への取組み
3. 農村社会開発
4. 国際的研究・協力

5. 農業分野における国民参加型の開発協力

6. 日本の農業農村開発協力の仕組み

III. これからの国際農業農村開発協力の展望

1. 持続可能な農業農村開発に向けてのアプローチ
2. 協力体制の強化

IV. ANNEX

1. 海外農業農村開発協力に携わる各機関等
2. 国際協力用語解説, 入門図書案内

A 5 判 約200ページ 定 価3,300円 (内税・送料学会負担)
会員特価2,900円 (内税・送料学会負担)
〔会員特価は, 個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社) 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494